

第1回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」開催報告

(2023年5月14日理事会報告より抜粋)

1. 日時・場所

4月17日(日)10時~12時5分・オンライン zoom 開催

2. 出席者(委員・事務局のみ)

学生7名、教員4名、マスコミ等3名、専務理事2名、事務局5名 合計21名(23名中)

3. 議題と内容

- (1) 研究会について(委員長選任含む)
- (2) 委員自己紹介 所属と名前を各自から。
- (3) 協議ポイント3点提起
 - ①研究会の目的と成果、②学調から見える学生生活について、③7月実施予定の「学生アンケート」
- (4) 第57回学生生活実態調査報告
- (5) 意見交換(②学調から見える学生生活について)
- (6) 7月実施予定の「学生アンケート」
- (7) 学生ネットワークについて
- (8) 次回以降の研究会の持ち方について
(予定とテーマ:第2回7月授業、第3回10月就活とキャリア支援、第4回12月学生相談と心身の健康)

4. 意見やポイント、キーワード

- ① 統計的平均にとどまらず、学生一人一人は多様である。と共に、学年ごとの相違・学年による同質性が見られる。
 - ・大学生だからと一概に言えない。人によってあり方が変わっている。
 - ・下級生はつながりや挑戦が重要、上級生は現状以上にはコミュニティを広げようとはしない。
 - ・20年入学生への懸念。充実度、コミュニティ、悩み等。更に今年就活の年で、学生時代に頑張ったことが言えない。
- ② 前向きな学生と後ろ向きな学生
 - ・後ろ向きな学生は参加しようとならない。彼らが参加するにはどうすれば良いか。
 - ・コロナ禍の中でも好きなことを一生懸命やった学生は前向き。
 - ・最初は落ち込んでいたが、考え方を前向きに変えて、気持ちが変わっていった。
- ③ 自分の経験を下級生に伝えたい上級生
 - ・上級生が伝え、下級生が聞く取り組み。人から人へ直接伝えることの影響力が大きい。
- ④ 共通の目的をもった取り組みの中で、学生同士のつながりがつくられていく
 - ・講座やセミナーなどつながりづくりが目的ではないが、同じ目的の取り組みの中でこそ、コミュニティ形成が進む
 - ・生協のPC講習会も、先輩と新入生が話す時間が、講習会よりも長くなる。メンタルヘルスPJもお互いの想いが共感し合って話しが進んでいく。
- ⑤ 全国ネットワークのある大学生協だからこそ、単独で行うだけでなく、いろいろと動いていく学生と一緒に進める、ハブとしての存在に
- ⑥ その他
 - ・社会人が学生を見守っている事も伝えたい。
 - ・オンラインと対面が両方あり、生活リズムが乱れている。
 - ・対面で混雑するキャンパスを嫌がる学生もいる。
 - ・オンライン就活になって、周りの学生の状況が見えずに、自分の位置が分からない中で、就活を進めざるをえなかった。

5. 今後の学生ネットワーク、名称『大学生協の学生モニター(仮称)』について